

部 会 報 告

第 12 回 ISO/TC 195 (建設用機械及び装置) ワルシャワ国際会議報告

標 準 部 会

1. はじめに

ISO/TC 195 は、建設機械の中、土工機械 (ISO/TC 127)、クレーン (ISO/TC 96) 及び昇降式作業台 (ISO/TC 214) を除く残りの全ての機械の規格化を担当する国際専門委員会であるが、その第 12 回の国際会議が平成 14 年 5 月 16 日～17 日ポーランドのワルシャワ郊外の建築・鉱山機械化協会で開催された。

P メンバーである日本よりは、「コンクリート機械に関する国際規格共同開発調査」事業 (経済産業省施策) の一環として以下の 3 名の者が日本代表として出席した。

大村高慶 (石川島建機) : TC 195/WG 4 日本主席代表 (前述事業の委員会委員長)

田島 修 (日工) : TC 195/WG 4 日本代表 (前述事業の委員会委員)

川合雄二 (日本建設機械化協会) : TC 195/WG 4 コンビナ (前述事業の委員会委員)

今回参加の主目的は、前述事業の委員会で日本が起案し、TC 195/WG 4 に提出している 6 件のコンクリート機械関係の規格案に関し、日本がコンビナとして主導的に審議・検討・調整を進め、その練成を図ることと、日本より提出している「コンクリートポンプの性能試験」に関する新業務項目提案を説明しメンバーの理解を得ることであったが、P メンバーとして初参加の米国の積極的支援もあり、各規格案とも予定通り検討、推進された。以下概況を報告する。

2. 各国会議出席者

会議に出席した 8 か国の委員、27 名は下記の方々である。

フランス (2 名) : A. Vecchia, C. Dussaugey

中国 (3 名) : Wang Xiling, Zhou Xianbiao, Zhang Meijia

ドイツ (2 名) : P.J. Probst, G.C. Pillar (WG 5 コンビナ)

アメリカ (6 名) : D. Emerson, F.W. Wenzel, R.E. Hutchison G. Kielb, G. H. Ritterbusch, D.G. Roley

ルーマニア (2 名) : Polidor Bratu, Aureliea Mihalcea

ポーランド (8 名) : K. Szymański (議長), A. Rozbiewski (幹事), A. Dudczak (WG 2, WG 3 コンビナ), M. Szarlik, R. Rybałkowski, R. Nadowski, J. Bieñka, S.J. Białostocki

中央事務局 (1 名) : Alain Samné (スイス)

日本 (3 名) : 大村, 田島, 川合 (WG 4 コンビナ)

合 計 27 名

3. 議事概要

5 月 16 日, 10 : 00 ~ 17 : 00 第 1 日目の会議が開かれた。議長の Szymański 博士の開会の辞、建築・鉱山機械化協会代表及び ISO 中央事務局の挨拶の後、「各国主席代表による自国出席者の紹介」、「議題の採択承認」、「決議録作成委員会の指名」、「幹事国報告」等が行われ、引続いて個々の作業グループ (WG) の規格案の審議に入った。



写真—1 会議風景



写真-2 会議出席者

・WG 2 (機械の定義) 関係 (コンビーナ: A. Dudczak/
ポーランド)

ISO 11375 (TC 195 の機械の定義を掲載した規格) に道路機械を ISO 11375-7 として追加する規格案が日本からの提案を採用して CD として出されてきたが、図面等に未完部分が多く関係国の協力を得て刷新、完成する必要がある。日本のコメントは6月中旬までに行うことで国内対策委員会にて現在検討中。なお、当該事業で開

発し現在 WG 4 を通じて規格化推進中のコンクリート機械類の関係もいずれ ISO 11375-3 として更新を提案することになる。

・WG 3 (基礎工事機械) 関係 (コンビーナ: A. Dudczak/
ポーランド)

基礎工事に用唯一の国際規格である「FDIS 11886.2-杭打、引抜機の用語と仕様項目」がやっと FDIS 投票 (期限 6 月 4 日) に掛かった旨の報告があった。国内対策委

表-1

規格案名称	決議事項	主な技術的課題
(1) コンクリートミキサー第1部用語と仕様項目一 (CD 18650-1.2)	3月末締切りの CD 2 次案投票の結果 (N 344)、数の上では、DIS に進めてよいことになるが、日本提出の多くのコメントに関する対応の検討、英、米等主要国からの意見が未提出等であることに鑑み、追加意見を 7 月 15 日まで受付け、これを幹事国 (ポーランド) が 8 月 15 日までに CD 3 次案として取纏める。	・ミキサの分類体系に関する各国認識の統一 ・掲載参照図面に関する基本的考え方の確立
(2) コンクリートミキサー第2部性能試験方法一 (WD 18650-2)	1 月 20 日のコメント締切りに対して日本以外からのコメントはなかった (N 349)。日本のコメントに対する意見及び更なるその他の追加意見があれば 6 月 14 日までに受付け、これを幹事国にて勘案して (提出済みの米国コメントも入れる)、7 月 14 日までに CD 1 次案を作成する。	・各国のコンクリート材料の規格上の相異をコンクリート機械の規格の上で如何に調整、反映させるか。 ・共通規定と共存規定の振り分けに関する基本的考え方の確立
(3) コンクリート棒形振動機 (CD 18651-2)	5 月 10 日締切りの CD 投票の結果日本、ドイツの反対で規定の票に達せず (N 347)、更に日本が CD 3 次案を 12 月 31 日までに作成することになった。 日本としては、騒音の試験方法に関してより実態に即した検討が必要との観点より、WG 4 を開催して取纏める。	・棒形振動機の分類体系に関する各国認識の統一 ・掲載参照図面に関する基本的考え方の確立 ・騒音、振動に関する試験方法及び規定値に関する共通認識の確立
(4) コンクリート型枠振動機 (CD 18652-2)	5 月 10 日締切りの CD 投票の結果賛成多数であったが (N 348)、米国等の要請もあり、更なる追加コメントを 6 月 14 日まで受付けて、投票結果の改訂版 (N 348.2) を幹事より 6 月 30 日までにメンバーに回付する。これに基づき 7 月 31 日までに DIS 1 次案が作成される。	
(5) コンクリートポンプ第1部用語と仕様項目一 (WD 21573)	4 月 23 日のコメント締切りに対して日本以外からのコメント提出がなかったので、日本が作成した規格案が CD 1 次案として 6 月 14 日までにメンバーに回付される。	・コンクリートポンプの分類体系に関する各国認識の統一 ・掲載参照図面に関する基本的考え方の確立 ・構成部品名称の調整、統一
(6) コンクリート吹付け機 (WD 21592-2)	4 月 23 日のコメント締切りに対し特にコメント提出がなかったので、日本が作成した規格案が CD 1 次案として 6 月 30 日までにメンバーに回付される。	・コンクリート吹付け機の分類体系に関する各国認識の統一 ・掲載参照図面に関する基本的考え方の確立 ・構成部品名称の調整、統一

員会で検討、5月24日無条件承認の投票を行った。

・WG4 (コンクリート機械) 関係 (コンビーナ: 川合/日本)

今回の出張の目的である日本起案の6件の規格案に関する審議を行い各今後のスケジュールを明確にした(表1参照)。

・WG5 (道路建設維持機械) 関係 (コンビーナ: G.C. Pillar/ドイツ)

① ISO/15644 チップスプレッド及びISO/15645 路面切削機は発行段階にあるとの報告があった。

② WG5を一時中断し、中央事務局のテクニカルプロジェクト・マネージャ Alain Samné氏より新ISOディレクティブの改定内容等についての説明を受けた。

③ ISO/DIS 15642.2「アスファルトミキシングプラントの用語と仕様項目」の投票結果資料N342に基づき、日本より提案している4件及び米国の85件の提案につき翌日にかけて逐条審議が行われた。

日本からは、田島代表より「ミキシングタイム」の定義に関し、規格案を変更すべき理由を説明し、再検討されることになった。

5月17日、8:30~17:00まで第1日同様、会議が続けられた。

④ ISO/DIS 15642.2「アスファルトミキシングプラントの用語と仕様項目」を前日に引続き審議した。

以上の審議結果は幹事国が6月30日までに規格案に反映させ、WG5のコンビーナの同意を得て7月31日までにFDIS投票用に提出される予定。

⑤ ISO/DIS 15688「ソイルスタビライザの用語と仕様項目」については、投票結果資料N345に基づき、重点審議が行われ、幹事国が7月31日までに決議内容を規格案に反映させ、WG5のコンビーナの同意を得て8月31日までにFDIS投票用に提出される予定。

⑥ ISO/DIS 15689「パウダバイダスプレッドの用語と仕様項目」については、投票結果資料N346に基づき、重点審議が行われたが、本件は、100%の承認が得られているので幹事国にて発行用規格案を7月31日までに作成し中央事務局宛に送付することとなった。

・新業務項目提案関係

① 「コンクリートポンプの性能試験方法」(日本提案)については、大村首席代表より提案規格の概要と国内での実機試験結果の説明を行い、現在、回答

期限7月5日で回付されている新業務項目提案への賛同を要請した。

② 「アスファルトフィニッシャ」(米国提案)については、フランスの国家規格(NF P 98-702-1)を参照のうえ、米国にて新業務項目提案書を至急作成し、幹事国よりメンバ宛に回付されることになった。

③ 仮設工事用伸縮調整支柱(幹事国提案)については、TC195の範疇外との意見も多く、業務項目に入れる賛同は得られなかった。

④ 手持ち建設用カッタ(エンジンカッタ)については、ドイツのスチール社の提案しているテーマであるが、提案国ドイツ自身が反対している。当該機は、チェーンソウの一部を建設用に改良したものでCEN規格がある。日本は規格化自身には特に反対しないが、各国での意見が明確になるまで静観の立場にある。本委員会では一時保留事項となる。

・次期議長選任

2002年末でTC195の現議長K. Szymański氏の任期が切れるので、次期議長の選任が行われた。現議長から再任の意思表示があり、過去の功績が買われSzymański氏が再任された。

日本からは、過去にISO/TC127/SC3の議長として大活躍された瀬田幸敏氏(当協会顧問)が健在でおられ、必要とあらば議長委嘱の可能性を有することを表明した。

決議録作成委員会報告

本委員会の決議事項17項目について内容の確認が行われた。

次回ISO/TC195国際会議予定

2003年5月15日~16日、ワルシャワで開催することが確認された。

その他の事項

日本より「TC195活動の活性化に関する提案」ということで、停滞しがちな現状を改善するため次の2項目を提案した。

① 幹事国業務のワークロードを軽減して規格化の迅速化を図るため、多くの規格を抱えるWG4、WG5については、SC1、SC2として権限を分掌して運営する。

② TC195の範疇にある機械の中、自走式機械については、既にTC127で開発済みの適用可能な規格があると思われるので、翌週行われるTC127との合同会議での1提案としたい。

①項については、幹事国よりメンバにこの提案に関し

意見聴取を行うことが、また②項については、TC 127 との合同会議で日本より提案することで各決議された。

最後に議長 K. Szymański 氏より多数の参加に関する感謝の辞があり、閉会した。

・ ISO/TC 127-TC 195 合同会議

日 時：5月20日(8:00~12:00)

場 所：ワルシャワ Forum ホテル会議室

出席者：TC 127；議長 G.H. Ritterbusch ほか約 60 名

TC 195；議長 K. Szymański ほか約 10 名

両 TC 議長の挨拶、各国首席代表による自国出席者紹介の後、各 TC 及び SC の議長よりそれぞれの活動の概要について説明があった。特に TC 127 議長 G.H. Ritterbusch 氏より「新材料の燃料タンク」、「転倒時保護構造」、「落下物保護構造」、「横転保護構造」、「運転席環境関係」、「シートベルト」、「整備性指針」ほかの TC 195 での使用推奨があった。

日本からは、TC 195 の範疇にある機械の中、自走式機械については、既に TC 127 で開発済みの適用可能な規格があると思われるので、その適用を検討するワーキンググループ編成を提案し、日本がコンビーナとなって取纏めることが決議された。

・ 新 ISO/IEC Directive の説明

日 時：5月20日(13:00~16:00)

場 所：建築・鋳山機械化協会

ISO 規格を作成する上での基本事項について新しく発行された「ISO/IEC Directives Part 2」に沿って中央事務局の S. Kennedy 氏より約 2.5 時間の説明を受けた。原則的には、NWIP から CD 完成まで 12 カ月という厳しい新しい制約をクリアするためには、規格案の起草段階からこの種の規則に熟知しておく必要があり、国内委員会の各委員にも学習、習得をお願いすることになる。

4. 所 感

今回の会議は、今までに参加に消極的であった米国、中国も多数参加し、更に ISO 中央事務局本専門委員会担当のプログラムマネージャも出席して総勢 8 カ国 27 名と過去最多の人数での会議となった。これにより、従来の EU 又は EU 寄りの国だけに偏った出席者のメンバ構

成も大幅に是正され、国際会議として相応しいものとなってきた。青木標準部会長による事前の参加への働きかけ、渡辺標準部長との中国訪問等、きめ細かい事前努力が結実したものと思われる。

建設工事のグローバル化が進む中で、使用される建設機械の仕様、安全性及び環境対応等機械の基本的要求事項を国際規格化することは、全ての建設機械に共通に課せられた重要な課題である。しかるに ISO/TC 195 の所掌する多種少量の機械分野の場合、各機械メーカーの取扱い高が個々には少ないためこうした規格化活動への参画には極めて消極的で、一方こうした規格化の遅れが逆に生産高の伸びを抑えてしまうという悪循環体質を有する。

こうした環境下において、現在コンクリート機械の国際規格化については、特にインフラストラクチャ整備上の重要課題として認められ、経済産業省の施策である「国際規格共同開発調査」事業の一環として順当に規格化が進展して、ISO/TC 195 の活動を支える最も大きな柱となってきている。

ISO/TC 195 には、道路舗装・整備機械、リサイクル機械、基礎工事機械ほか今後登場する全ての新しい建設機械が含まれるが、時代の最優先課題に焦点を合わせて「コンクリート機械」同様の規格化支援を行っていくことが必要と考える。

一方、12 年間で発行された規格数僅か 3 件という低調振りであった ISO/TC 195 もこうした日本の積極的参画及び働きかけによって、15 件の規格案がここ数年のうちに規格発行の予定で進められるようになったが、この規格の継続的改正、更新及び更に今後追加される前述の新規の規格開発の処理を円滑に行うためには、幹事国だけに頼っていた従来の体制を抜本的に改善する必要がある。規格数の多い機械については、SC を設け権限の分掌等を提案中である。

今回の ISO/TC 195 の開催は、これに引続いて ISO/TC 127 を招聘開催したため、双方の招待国としてのポーランドの関係者の努力には並々ならぬものがあり、特にホスト役として終始スケジュールの円滑推進に努められた ISO/TC 195 議長シマンスキー博士には心から敬意の念を表したい。また、EU 加盟を 1 年半後に控え、こうした国際会議開催等への積極的取組みは、時宜を得たものと評価したい。

(文責：川合雄二)